



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.812 2011年11月28日

ARIBの動き

「ラウドネスサミット東京」を開催

一般社団法人電波産業会は、社団法人日本民間放送連盟との共催により、11月16日(水)から18日(金)の間、2011年国際放送機器展(Inter BEE 2011)において、「ラウドネスサミット東京」を開催しました。

本サミットでは、ラウドネス導入の背景、ラウドネスの諸規定及びラウドネスメータ使用方法をテーマとしたゼネラルセッションの「ラウドネス・シンポジウム」と、ARIB TR-B32の解説、ポストプロダクションでの制作技術及び放送局での実運用の紹介や、放送外分野の有識者を交えたパネルディスカッションを繰り広げる「ラウドネス・ワークショップ」を開催しました。

「ラウドネス」問題は、デジタル放送の急速な普及と、近年のメディアの多様化から、業界関係者で真剣に議論が進められてきました。番組やチャンネルの切り替わり時に生じる、音量偏差による視聴者のリモコン操作の煩わしさから開放しようというのがラウドネスの目的です。最近ではラウドネスを法制化する国もでてきました。

民放連も、ARIB TR-B32を元にしてテレビの音の規準を制定し、2012年10月1日より導入開始する旨を発表しました。番組制作、ポストプロダクション及び放送局に限らず、業界関係者にとって「ラウドネス」は重大な関心事であります。

本サミット開催中、全てのセッションとも、予測をはるかに超えて倍近くの見客の方々にお越しいただき、熱心に聴講いただきました。



「ラウドネス・シンポジウム」の様子



「ラウドネス・ワークショップ」の様子

第 91 回電波利用懇話会開催のお知らせ
「GPS と米国 LightSquared 社との混信問題について」

米国においては、FCC（連邦通信委員会）の LightSquared 社の携帯電話サービスに対する L バンドの周波数割当てが、隣接する GPS サービスに対して電波の混信を引き起こし、GPS サービスの安定的な提供に支障が生じることが懸念されています。米国における状況によっては、米国の国内問題に留まらず、我が国の GPS 受信機の製造事業者などに大きな影響が出ることも考えられます。

このため、今回の講演会においては、当会と衛星測位システム協議会との共催により、この問題にも深く関わっておられる米国ジョージワシントン大学 エリオット国際学部 宇宙政策所長のスコット・ペース博士をお招きして、GPS と米国 LightSquared 社との混信問題について、下記のとおり、講演を頂くことといたしました。ペース博士は、米国商務省、OSTP(科学技術政策室)、NASA(宇宙航空局)などの米国政府での勤務経験があり、米国政府とも太いパイプをお持ちです。

会員の皆様におかれましては、米国の電波利用分野の最もホットな問題のひとつに対する理解を深めて頂くためにも、是非とも、ご参加下さいますようご案内申し上げます。

なお、今回の講演については、逐次通訳を準備しますので、Q&A を含めて約 3 時間を予定しています。

記

- 1 日 時 : 平成 23 年 12 月 15 日(木) 午後 2 時から 5 時まで
- 2 場 所 : 一般社団法人電波産業会 会議室 (日土地ビル 11 階)
東京都千代田区霞が関 1-4-1 TEL:03-5510-8592
- 3 主 催 : 一般社団法人電波産業会、衛星測位システム協議会
- 4 題 名 : GPS と米国 LightSquared 社との混信問題について
(逐次通訳を準備します)
- 5 講 師 : Dr. Sott Pace
Director of the Space Policy Institute,
The Elliott School of International Affairs,
The George Washington University
- 6 対 象 : ARIB 正会員、ARIB 賛助会員及び衛星測位システム協議会会員
- 7 参加者 : 70 名程度 (定員になり次第締め切らせていただきます。)
- 8 申込先 : 当会ホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「講演会等開催案内」まで
- 9 参加費 : 無料
- 10 問合せ先 : 企画国際部 電波利用懇話会事務局 佐藤まで
TEL: 03-5510-8592 e-mail:arib-seminar2011@arib.or.jp

以上

アジア・太平洋電気通信共同体（APT）事務局長選挙の結果

[【平成 23 年 11 月 17 日の総務省報道資料から】](#)

－現職事務局長の山田俊之氏が再選－

平成 23 年 11 月 16 日（水）から 18 日（金）まで大韓民国（済州島）で開催されたアジア・太平洋電気通信共同体（APT）第 12 回総会において、11 月 17 日（木）に次期事務局長選挙が行われました。

事務局長選挙には、日本から現職の山田俊之氏が、大韓民国からウィ・キュジン氏が立候し、加盟国による投票の結果、山田俊之氏が過半数の 28 票を獲得し、事務局長に再選されました。

選挙結果

- 1 投票への出席国：35 カ国
- 2 投票数 37 （無効 1 票、棄権 0 票）
- 3 結果

当選	山田 俊之氏	（日本）	28 票
	ウィ・キュジン氏	（大韓民国）	8 票

※山田俊之氏は、平成 24 年 2 月 9 日から平成 27 年 2 月 8 日までの 3 年間、2 期目の APT 事務局長を務めます。

（注 1）欠席国 3 カ国

（注 2）代理投票 2 カ国

（ソロモンは日本に委任）

（パプアニューギニアはサモアに委任）

【参考】

次期事務局長選挙に続いて行われた事務局次長選挙において、現職のクライソン・ポーンステイー氏（タイ王国）が、投票の結果、次期事務局次長に再選されました。

※[アジア・太平洋電気通信共同体（APT）](#) :

1979 年、アジア・太平洋地域における電気通信専門の国際機関として設立。本部タイ王国（バンコク）。当該地域における電気通信の均衡した発展を目的として、研修やセミナーを通じた人材育成、標準化や無線通信などの地域的政策調整等を行っている。

【別添資料】

[山田氏略歴](#) 

高度無線通信研究委員会
標準化部会 コラボレーショングループ 主査
兼 WP5D対応WG 副主査 小西 聡



(株式会社 KDDI 研究所 無線通信方式グループ グループリーダー)

2011年10月に開催されたITU-R WP5D 会合にて、3GPPのLTE-AdvancedとIEEEのWirelessMAN-AdvancedがIMT-Advancedシステムとして承認された。私は、IMT-Advancedシステムの提案募集が始まった年である2008年の4月から、ARIBやITU-R WP5Dの会合に参加してきた。また、ARIB コラボレーショングループ主査として、ARIB、CCSA、TTA等によって構成されるCJK-IMT 会合に参加してきた。2008年から4年弱の歳月を経て、IMT-Advancedシステムの勧告文書が完成されたことは感慨深い。

私がITU-R WP5DやCJK-IMTの会合に参加し始めた当初は、IMT-Advancedの候補システムの性能評価に不可欠な評価手法や評価パラメータの検討が不十分であった。そのため、過去の経験を活かして、IMT-Advancedシステム用の性能評価手法や評価用パラメータをまとめた、日本寄書や日中韓寄書を作成した。会合では関係各国との調整を通じて、IMT-Advancedシステムの性能評価手法をまとめたReport ITU-R M.2135の完成に貢献した。これがARIBや日本の代表として、ITU-R WP5Dに貢献できた最初の成果と言えよう。

Report ITU-R M.2135には記載されていない、より詳細な性能評価条件をCJK-IMT WG内で検討するため、CJK-IMT WG内にSIG (Special Interest Group) が新たに設立され、私が議長職を拝命した。CCSAやTTAの担当者とは詰めて議論した結果をとりまとめ、ITU-R WP5Dに提出したほか、最終的に、CCSAやTTAの性能評価グループによるIMT-Advancedシステムの性能評価作業の推進に寄与し、CCSAやTTAの担当者と喜びを分かち合えたことは思い深い。

最近では、ITU-R WP5Dでの研究内容を決定する研究課題 (Question) の改訂を検討するITU-R WP5D内のグループの議長職を拝命した。日本からの寄書提出はもとより、日中韓による共同寄書化を進め、議長として各国の提案をまとめながら、Questionの改訂案を完成させたことにより、日本ならびにARIBのプレゼンス向上に貢献できた。

以上のように、ARIB委員の一人として、IMT-Advancedシステムの性能評価やITU-R WP5DのQuestion文書作成に貢献できたこと、また、これらの活動を通じて、世界各国の方々と協力しながら業務を遂行できたことは、自分自身にとって非常に良い経験であった。この場を借りて、ARIB関係者ならびにARIB委員各位に感謝の意を表したい。

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp